

令和7年度 第1回大津市環境人育成推進懇話会 議事録

1	日時	令和7年6月26日(木) 18:30～19:30	
2	場所	大津市役所 新館7階 大会議室	
3	出席者	8名 ※敬称略 びわこ成蹊スポーツ大学 中野 友博 オーパルオプテックス株式会社 山脇 秀錬 NPO法人おおつ環境フォーラム 長崎 雄二 カワセミ自然の会 橋詰 幸喜 びわこ成蹊スポーツ大学 中川 宏治 大津こども環境探偵団エコリーダー 三谷 大樹 滋賀県小学校教育研究会 環境教育部会 石戸 勇雄 幼稚園環境部会 山本 美徳	
4	欠席者	1名 ※敬称略 滋賀県シェアリングネイチャー協会 辻田 良雄	

1 開会

2 環境政策課長挨拶

- ・今年度につきまして、新たに二名の方に構成員に加わっていただいている。引き続きご指導を賜りたい。
- ・令和8年度に環境基本計画第3次の中間見直しを予定している。今後、皆様に様々な御意見を伺いながら、中間見直しの方を進めたい。

3 座長挨拶

- ・22年程前から名称を変えながらこの懇話会をやってきた。
- ・令和8年度に見直しがあるということで環境人を育成するために色々な御意見を頂ければと思う。

4 議題

(1) 構成員紹介

- ・資料2『「大津市環境人育成推進懇話会」構成員』のとおり事務局より説明。

(2) 本市の環境学習関連事業について、(3) 令和7年度環境学習関連事業について

- ・資料3「本市の環境学習関連事業について」、資料4「令和7年 環境学習関連事業について」事務局より説明。

【構成員からの御意見・御質問】

- ・去年、大津市地球温暖化防止活動推進センターにおいて実施する自然家族事業等で定員割れが生じた。参加者へのアンケート調査において、広報おおつの紙面への掲載が小さくなった

- ことが原因であることが分かった。今年はチラシを作って関係する幼稚園や保育園に配布したところ見事回復したが、お金がかかってしまう。広報の紙面は以前のようにならないのか。
- 以前は月に 2 回だった広報が月に 1 回になり、紙面への掲載エリア確保が難しくなっている。これからは Web ページ（ホームページ）を充実させ、広報紙や SNS は Web に誘導するためのツールとして機能させることが考えられており、今はその転換期だと考えている。
- ・広報に載せた情報がうまく市民まで伝わる道筋が作れているのか。自然家族事業は環境人を育てるための市の事業であるので、道筋がないのは不安だ。
- 広報自体には載せているが、やはり紙面の都合上 1 件あたりの情報量が少なくなっている。
- ・ホームページには載せてもらえないのか。
- 載せられる。広報に二次元コードが付いているので、そこからホームページに誘導できる。
- ・利用者の方に実際にお聞きすると、写真がないから、イメージできなかったと仰っていた。小さくても写真を載せることは価値があると感じた。
 - ・チラシの二次元コードを載せることはできるのか。
- 可能である。
- ・世代に限らず、二次元コード等は得意な方、不得意な方がいると思う。
-
- ・地域の自然環境とか文化もだが、身近な地域の方が関心を持って触れる機会があるとよいと思う。保護者に関心がなくても子どもに経験をさせることと、地域の方や身近な方にイベント型の事業に来ていただくことの 2 点が課題であると思う。そのために、情報を伝える仕組みは重要だと思う。
- 学校ごと、地域ごとはずでに進んでいると思う。
- ・大宮川の活動は近くの学校にチラシやポスターの掲示をしたのか。
- 最近の小学生は忙しく参加率が低いため、小学校に掲示はしていない。保育園、幼稚園に焦点を当ててチラシを作った。小学生は授業だからできるのだと思う。
- ・「環境人」という言葉を知らない人にどう伝えるのが今年の課題かもしれない。
-
- ・大津こども環境探偵団は、定員 40 名いるのか。また、大学生ボランティアについて動きはあるのか。
- 団員は 40 名いる。ボランティアについては、大学にチラシを置いてもらうよう依頼し、大学生に来てもらっている。滋賀大学にボランティア活動への参加で単位を取得できる制度があるので、数あるボランティア活動の中から選んで来ていただいている。今のところ反響はない。
- ・びわこ成蹊スポーツ大学も同じような制度はあるのか。
- スポーツボランティア実習というのはあるが、環境はなかなか学生と繋がりにくい。しかし、大学は地域との関係を持つためにもっと外でいろんな体験をするよう変わってきている。それぞれの大学でも同じような制度はあるのではないと思う。
-
- ・関連学習事業をみると基本的にイベント型であるが、日常生活の中で自然に関わるような仕組みや、市民団体で自然体験をテーマに市民活動している団体があるため、市民団体をま

める中間支援組織のようなものを作る等、イベント型以外でチャンスを高めていくような事業を盛り込んでいくことはないのか。

→おそらく、イベント型でないのは探偵団である。同じ子どもを対象に何度か活動をしている。

・探偵団は活動年数は何年になるか。

→30年以上活動をしている。探偵団も最近イベント型になりつつあると感じる。夏の活動が実施しづらく、四季を通しての活動は難しくなっている。

・小学生は学校の総合的な活動で環境学習をしており、休日にも忙しいが学校以外の活動でも抽選をするぐらい人が集まる。親がどういうところに魅力をもって、子どもにどのような体験をさせたいと思うのかだと思う。親は学校でやっているの、休みの日は違うことをしようとなりやすいため難しい。

・広報の紙面が小さくなったことで、いろいろな影響が出ていると感じる。活動自体は子ども達に楽しんでもらえるので、やはり親にどのようにして情報を届けるのかが一番大事になると思う。こちらも SNS のやり方を日々模索している。

(4) その他 ①県内市町への「環境学習事業の実施状況調査（照会）」について

・資料5「市民参加型環境学習事業の実施調査」について事務局より説明。

【構成員からの御意見・御質問】

・たくさん聞くと答える方も大変であるので、資料には最低限のことを挙げていただいていると思う。

各自治体のどこに照会するのか。

→こちらと同じ環境部門に照会しようと考えている。

・個人的には教育委員会とどのように連携をとっておられるか関心があるので聞いていただきたいと思う。

・大津市が幼稚園、保育園とたくさん連携していることを考えると、教育委員会に聞くと保育園が抜けてしまう。保育園、幼稚園、小学校、中学校と聞くと回答しやすいと思う。

・環境保全活動を回答に含まないのであれば、「環境学習」の定義をする必要があると思う。

・調査の経緯を記載すると答えやすくなるだろう。

(4) その他 ②大津市環境基本計画(第3次)～環境人の育成について～の中間見直しについて

- ・資料6「大津市環境基本計画 実行計画(抜粋)」、資料7「大津環境人を育む行動計画 活動指標達成度」、資料8「環境基本計画(第3次) 関連事業進捗(令和5年度)」について事務局より説明。

【構成員からの御意見・御質問】

- ・次回以降、話を進めるということによろしいか。
- そのとおり、特に「第6章の大津環境人を育む行動計画」の部分に関して御意見いただきました。

5 閉会

- ・お忙しい中、本懇話会にご出席賜り感謝申し上げます。
- ・本日頂いた貴重な御意見は本市の事業に生かしていく。